

文科學術談話會々誌 第八號

目次

講演

婦人の將來……………本校講師……………文學士……………保科孝一……………一

中世の心に就いて……………文科一部二年……………荻野、山中、阿部、木村、日比野……………一五

叢談

習字と作文とに就て……………中川謙二郎……………二五

文苑

(漢詩) 秋日山行外十五題……………贊助員……………森岡タケ……………二七

(漢文) 讀伯夷傳……………項羽論……………研究科……………竹田みち……………二八

(國文) 大化の改新……………文科二部二年……………小泉郁子……………二九

(短歌) 春のはじめ……………柴……………舟……………三二

新芽……………贊助員……………ひ……………三三

かたをなみ	賛助員	山下	さい	三四
すくすくと	み	な	み	二六
かろがろと	文科一部三年	齋藤	加津	二六
(隨筆)				
一 輪草	わ	か	な	二七
笠井さまに	み	な	み	三九
偶 感	破			常
日誌の中より				四二
報				
第二十八回文科學術談話會記事				四七
庶務報告(退會者氏名)				四七
第七回會計報告				四七
交 詢				
母校だより				四八
彦根より	賛助員	竹田	倭子	四九
三原より	賛助員	筒井	たか	五一
宮崎より	賛助員	長谷川	すが	五四
水戸より	賛助員	竹尾	恵子	五五
編輯だより				五六

文科學術談話會々誌

第八號

講演

◎婦人の將來

本校講師 文學士 保科 孝一

(一)

婦人の將來といふ題でお話ししようと思ふが、然し別に哲學上からやかましく論ずるつもりではない。只歐米に於ける觀察につけ加へて所感を述べて見たいといふ丈の事である。

婦人の將來はごうなり行くものであらうかと言つた所で、婦人が男子に變るわけではないから、婦人は依然として婦人であるけれども、婦人は依然として婦人としてその將來はごうなるものであるか

が一つの問題で、歐米に於て所謂婦人問題なるものが種々の方面から到る所で攻究せられてゐるのである。しかしその婦人問題についてお話しするつもりではないので、今お話ししてみようと思ふのは、教育者としての婦人の將來と學者としての婦人の將來についてである。